

思い出

福岡市開業 柏木 伸一郎

九州地方会をふりかえる時、最も思い出に残るのは佐賀で開催された第13回大会です。中尾大会会長のもと、小児歯科集談会と九大小児歯科が担当で行われました。地元福岡で開催するのも大変ですが、それを佐賀でやろうと言うのですから、今考えると何と無謀だったことか。準備の体制が整うまでに、佐賀県歯科医師会の会長や専務さんへの挨拶から、九大同窓会への協力依頼そして地元の小児歯科関係の先生方との数回にわたる懇談などを経ました。

会議するにも、往復するだけで最低2時間はかかりました。これを支えたのは、九大小児歯科の医局員を始め運営に関わった方々の情熱があったからです。そして、学会が成功裏に終わったのは、佐賀の先生方・衛生士会の方々がその情熱に答えてくださり、我々と一緒になり佐賀で最初の小児歯科学会を成功させようと一生懸命取り組んで頂いた賜です。

あれから7年たち、今回の20周年記念大会で佐賀の森永先生にお会いして、研究会の活動や小児歯科の現状などを伺うことが出来ました。少しはあの7年前の地方会が、お役に立っているのかなあと感慨深いものがありました。学会では色々な人と巡り会いますが、一緒に苦労して学会を開催した点で、特に佐賀の先生方は忘れられない存在です。

今後の課題

大分市開業 木船 敏郎

九州地方会が発足20周年を迎えるにつけ、今までの地方会のいろいろな場面を、懐かしく思い出します。

一番の思い出は、第一回九州地方会大会のことです。九州内の各大学の教授の先生たちはまだ非常に若く、これからどうなるのだろうと、私たちはわくわくして、大会に出席しました。全国大会とどんな違いを出して、地域の地域医療に貢献する学会になるのか、会場には熱い雰囲気がありました。

それから、私の地元大分市での地方大会や、私がシンポジストとなった佐賀市での大会など、事前の準備に何度も福岡市に通ったことなど、苦労はあったが楽しい思い出です。

今後の地方会に私が期待することは、小児歯科学会に未加入で、小児歯科の標榜をされている先生方の対策です。国民の小児歯科医療を支え、地域の小児歯科の医療水準を支えているのは、この先生がたの力によるものが大きいからです。

小児歯科学会の非会員に対して学会として関知しないという態度では、小児歯科学会の活動は拡大発展の余地がありません。つまり、非会員の小児歯科標榜を非難し、対立するようでは、日本の小児歯科医療の発展はありません。

日本は自由標榜制の国ですが、標榜する限りは、小児歯科の名に恥じない医療水準を維持できるようにすることが、もっかの地方会の課題ではないかと、私は思います。